## 第５回研究会報告

第５回日本言語文化学研究会は昨年の１２月５日（土）午後２時より一般教育３号館において行われましたが、前回同様５０名を越える会員、新入会員、及び国文学科の先生方等の参加を得て、たいへん盛況な研究会となりました。発表の方は本誌所収の発表要旨をご覧頂いたらお分かりのように、「ほめ言葉」、及びあいさつ語「どうも」の使用制約についての共時的な社会言語学研究が２つ、「すき」という概念についての通時的な国文学研究が１つ、モナシュ大学のイマーション・プログラムとその教育理論の紹介、及びそこでの研修（実習）報告が１つ、と言語文化学が対象とする研究領域の広さをよく示すものでした。

休憩時間に暖かい飲み物とおいしいお菓子が出るのも本研究会ならではのことですが、ここでのなごやかな雰囲気はそのまま研究会後場所を文教２号館に移して行われた懇親会にも引き継がれました。懇親会には日本言語文化専攻が夏の実習でたいへんお世話になっている国際学院埼玉短期大学の清原滋子先生駆けつけて下さいました。

日本言語文化専攻ではこの３月に第１期の修了生１４名を出すと共に、４月には１５名の新入生を迎えました。修了生の就職（進学）先はさまざまで、国際交流基金による派遣が２名、大学での非常勤講師が５名、お茶大博士課程進学が３名、アメリカでの進学予定が２名、などとなっています。これら修了生の今後の活躍が期待されます。また、日本言語文化専攻ではこの４月より助手の定員増加が認められたのに伴い、１期修了生の佐々木泰子さんをその助手として迎えました。本研究会に関する主な仕事も一手に引き受け、現在活躍中です。（なお、今年度から日本言語文化専攻の（在職）社会人対象の入試が１０月に変更になります。）

今後この研究会が益々充実していくことを期待すると共に、次回の研究会でも多くの皆様に再会できますことを心から楽しみにしております。

（長友和彦）